

# 潟語り (十五)

文・小西 一三  
絵・小西 由紀子

## 干拓前後の思い出

潟端の多くの家がそうであったように、羽立の安田丈吉さん（五六）のお宅も代々、半農半漁。安田さんは干拓後も水田を耕作しながら、潟での漁も続けています。主に干拓前後の潟の様子について話をうかがいました。

### 潟中の魚が一カ所に集まった？

戦後の、俺がまだ小さかった頃。打瀬船の漁は盛んで、家の近くの船着き場も活気があった。あの頃は戦後の食料不足の時代だったから魚の値段もいいし、船を持っている家ではどこも一生けん命に魚を捕っていたもんだ。

その後、干拓が決まって工事が着工。あれは俺が中学生の時、確か昭和三十年だったな。ここ一帯の地域干拓でポンプで水を汲み上げていた最中だったな。水が少ねぐなってくるんだもの、魚が水を求めて一カ所に集まりだした。

雪溶けの後だから三月下旬。あれは二田の方から来た人たちだったべな。カマス袋にフナ、カレイ、ボラなどの魚をいっぺ詰めで、ソリに積んで泥の上を引っ張りながら帰って行くのを見た。

あの頃は漁師の網を使わねぐても、手づかみや小さい網でなんぼでも魚が捕れたもんだ。みんな泥だらけになって魚を追いかけていたな。

俺は学校を出てから干拓途中の潟で、兄キと二人で漁を

続けた。大潟村の堤防ができてからは船を向こうに運んでオートバイで通ったもんだ。堤防の近くの、ちょっと深くなった所で網を引けば毎回大漁よ。そういう所には魚が集まってきていだがらな。潟には、こんな魚がいたもんだべなと思う程だった。あれは忘れられねな。

今のように米が余る時代、あの干拓は何だったべな、と思うこともある。地域干拓だけで十分だったんでねえべが……。今となっては遅いどもな……。

私も一緒に船に乗ったな。



奥さんの悦子さん

あの頃だは  
今よりのんびりしたな...



木船で漁をしていた昭和50年ごろのスナップ写真より。左の男性が安田さん。